

# 平成27年度「全国学力・学習状況調査」の結果 —分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

|      |           |
|------|-----------|
| 区名   | 旭区        |
| 学校名  | 大阪市立古市小学校 |
| 学校長名 | 松本 容子     |

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成27年4月21日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育局では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育局の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科も含め、総合的に子どもの学力向上を目指しています。学校の現状や取組の参考にしていただきたいと思います。

## 1 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準向上の観点から、児童の学力や学習状況を継続的に把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## 2 調査内容

### (1) 教科に関する調査（国語、算数、理科）

- ・主として「知識」に関する問題（A問題）
- ・主として「活用」に関する問題（B問題）
- ※ 理科については、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に出題

### (2) 質問紙調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

## 3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全生徒
- ・古市小学校では、第6学年 72名

## 平成27年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

国語A・B問題、算数A・B問題の平均正答率は、全国・大阪市よりも低い。理科については、全国平均正答率より低い、大阪市とほぼ同じである。領域別にみると、国語では、A・B問題ともに全国・大阪市平均正答率より低い。A問題の「書くこと」についてはその差が少ないが、B問題での差は大きい。算数科では、A・B問題ともに全領域で全国・大阪市平均正答率より低い。特にA問題「量と測定」の領域においてかなりの差が見られる。理科では、全領域で全国・大阪市平均正答率より低い。A区分「エネルギー」の正答率の差は少ないが、「物質」「生命」「地球」についてはかなりの差が見られる。無回答率については、国語A・B問題、算数A・B問題は全国・大阪市とほぼ同じであるが、理科については、全国・大阪市よりも低い。

## 分析から見てきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕各学年の漢字を正しく読む書くことはできているが、確実に定着するまでには至っていない。文法の理解も十分とは言えず継続指導が必要である。登場人物の相関関係を的確にとらえることにも課題が見られる。内容を大体理解していても、目的に応じて適切に引用することができていない。目的や意図に応じて、書く、要旨を捉えることにも課題が見られる。

〔算数〕四則・基本的な計算・図形の性質等、基礎的・基本的な内容は理解できている。しかし、計算間違いや、理解している内容を記述する時の間違いで、正答に繋がらないのが課題である。面積の比較に関してはよく理解できており、等分の考えを正確に記述することができていた。ABともに、問題の内容を十分とらえきれずに間違っている箇所も多い。正確な読み取りと論理的に考えて問題に正対することが課題である。

〔理科〕電磁石や顕微鏡の内容についてはよく理解できていた。実験器具の名称もしっかりと覚えている。星座の動きもよく捉えられている。基礎知識や学習した内容は理解できている。しかし、問題を読み取る力や記述する力に課題があり、正答に繋がっていないことが課題である。読解・表現力の育成が望まれる。

どの教科においても、各教科の基礎的・基本的内容を理解し学習内容をしっかりと身に付けることが必要である。また、既習内容を活用する力の育成が課題である。そこには、言語力向上と論理的に考えて結論を導き出していくという思考力・判断力・表現力の育成が課題である。

質問紙調査より

○朝食を毎日食べている・同じくらいの時刻に寝ているというように、基本的な生活習慣を身に付けてきている児童が増えている。きまりを守る子どもの割合が高くなり、規範意識も向上している。また、自分のよさを認めることができるようになり、自尊感情の高まりも見られる。

○「放課後ステップアップ教室」や「おさらい教室」を実施して、家庭学習の習慣化への取り組みを実施しているが、学校内で計画的に学習することができていても、家庭で自分で計画的に学習を進めている児童の割合は多くない。家庭学習が定着するのには課題が残っている。

○言語力の向上を図るために、日常の学習の中に考えを発表する機会を多く取り入れているが、理解していても実際に考えを発表することができる児童は多いとは言えない。自分の考えを文章に表記するのが苦手な児童も多い。

○地域・社会の行事や出来事に関心を示す児童や、地域行事へ参加する児童の割合は多いとは言えない。学校生活の様々な場面で、地域の方と繋がる行事等の取り組みを工夫していきたい。

## 今後の取組

○学習面では、基礎的・基本的学習内容の定着を図り確かな学力向上に向けて、きめ細かな指導を展開していく。具体的には、個別指導、習熟度別少人数指導の充実を図る。学習形態の工夫、1学級あるいは学年を分割して学習する時のグループ編成、学習指導材の創意工夫。学習に対する児童の実態を把握し、学習内容の定着を分析して、課題を明確にし指導に生かしていく。家庭との連携を図り確実な学習内容の定着を図っていく。

○生活面では、基本的な生活習慣と規範意識のさらなる向上を図るために、「健康週間」「あいさつ週間」等、自分たちの生活を見直す機会を多く設定していく。特に「あいさつ」については、児童自ら意識づけ、挨拶をしていこうという取り組みを学校全体で進めていきたい。

○地域教材の開発や地域や外部の人材を教育活動の中に生かしていく。

○メールについては、その使い方に課題が見られる。携帯電話やスマートフォン、インターネット等の正しい使い方や一定のルール、モラルについては、さらに指導を継続して問題には早急に対応していくことが重要であると考えている。